

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年1月25～2月8日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年1月25日(水)戸崎公民館(参加者12名)

- ・「いつまでもこの戸崎で暮らして行きたい。」
- ・「元気でポックリがいいですよ。そんなことばかり考えています。」
- ・「認知症が一番の心配です。もうなっていますよ～(笑)」
- ・「一人暮らしだから、ずっと家で暮らすのは難しいと思います。」

(話の都度ご意見が出たり、反応が多く興味深く聞いていただきました。お隣同士熱心に話されたり地域の関係性の強さを感じました。)

平成29年2月6日(月)塩屋町公民館(参加者17名)

- ・「いつまでもこの場所で暮らしたい。」(みなさん頷かれていました)
- ・「地域包括システムってよくわかりません。」
- ・「高齢者が増え続けてサービスや施設の不足が心配。費用も非常に心配です。そんな説明も欲しい。」
- ・「他のいろいろな事例も聞いてみたい。」

(講座終了後、「友人のお母さんが現在入院中。病院は3か月で退院しなければいけないのか?」との質問があり、客観的な立場で説明をさせていただきましたが、退院・転院についての支援充実の必要性を感じました。)

平成29年2月8日(水)小瀬公民館(参加者17名)

- ・「最期はやっぱり病院が安心やっどなあ。家では心配よなあ・・・」
- ・「地域包括ケアシステム??よく解りません。」
- ・「とても良く解る話でしたが、やはり自宅での介護は大変だなと思います。」

(介護をされている方や、受けている方それぞれの思いを聞かせていただきました。講話の間にも会話をされたり隣の席の人を気遣ったり、地域の繋がりが強い印象でした。)



(戸崎公民館)

(塩屋町公民館)

(小瀬公民館)